

畜産業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2020	3	12 ～ 14	被災者は堆肥小屋の屋根を補修するため、高所作業車を使用して屋根に上り、補修作業を行っていた。その際、屋根材を踏み抜き、堆肥の上に墜落した。その後、堆肥を攪拌するための攪拌機が自動で稼働していたため、攪拌部に巻き込まれて、切断された。	415	1	30 ～ 49
2020	5	12 ～ 14	肉豚舎において、糞尿を排出するスクリーコンベヤーに被災者の両足が挟まっている状態で発見され、出血性ショックにより、同日死亡した。	224	7	1～ 9
2020	6	12 ～ 14	事業場付近の道路において、最大荷重1.75トンのフォークリフトを使用しゴムホースのドラムを運搬中、下り坂でブレーキが利かなくなり山肌に乗り上げて横転した。その際、運転手及び同乗者が投げ出され、運転手が横転したフォークリフトの下敷きとなり死亡、同乗者は頭部挫創した。	222	17	1～ 9
2020	7	10 ～ 12	牧場の牧草地にて、ハーベスター（飼料収穫機）とダンプトラックを用いて牧草の収穫を行っていたところ、ダンプトラックが泥濘にタイヤを取られた。そのため、ハーベスター後部とダンプトラック後部を両端にフックが付されたワイヤロープでつなぎ、牽引していたところ、被災者がハーベスターとダンプトラックの間に入り、挟まれたもの。	221	6	1～ 9
2020	11	4 ～	被災者は馬場で競走馬の調教を終え、騎乗したまま調教後のクールダウンのために厩舎に向かっていたところ、突然、競走馬が暴走し、直角に曲がった馬道を曲がり切れず、法肩に設置された植え込み及びフェンスに衝	719	1	1～

		6	突し、被災者が馬上より投げ出されて、当該フェンスを越えて、土の法面さらにその先のコンクリートブロックと合わせて高低差約10メートルを転落し、死亡したものの。			9
2020	12	18 ～ 20	被災者は、フォークリフトを運転して、鉄製の箱に入った廃棄物を運搬していたところ、横転したフォークリフトのマストに頭部が下敷きになり死亡したものの。現場は街灯のない市道で、霧のため視界不良であった。また、被災者はシートベルトを装着せず、保護帽も着用していなかった。	222	17	30 ～ 49
2020	12	18 ～ 20	被災者は、容器に入れた鶏糞をフォークリフトで運搬する作業を行っていたところ、鶏糞を運搬する鉄製の容器の下敷きになって死亡したものの。	611	4	10 ～ 29
2020	12	14 ～ 16	被災者は、乳牛を運搬車の荷台から降ろそうとしたが、運搬車後部のスロープ入口で乳牛が立ち止まってしまったため、乳牛を前方から手綱で引っ張り、上司が後ろにまわって乳牛を押そうとしたところ、突然乳牛が前進し、バランスを崩した被災者が転倒し、地面で後頭部を打ったものの。被災者は、保護帽を着用していなかった。	221	2	10 ～ 29
2019	1	20 ～ 22	被災者は牛舎内において除糞作業に従事していたところ、糞尿を流し込む溝（幅40cm、深さ40cm）に設けられている金属製のスクリーコンベア（径30cm）に右半身を巻き込まれている状態で発見されたものの。当該溝にはすのこ状の覆いが設けられており、通常はすのこから溝に糞尿が落ちるが、冬季は糞尿が凍り、溝に落ちないため、災害発生時には、すのこを外しスコップを用いて糞尿を溝に落とす作業をしていたものである。	224	7	10 ～ 29
2019	2	14 ～ 16	発酵処理設備の高さ1mの階段付近で倒れている被災者が発見され、救急搬送された。発見時の状況などから、発酵処理設備の潤滑油を補給するため容量20リットルの未開封のペール缶を運搬中にバランスを崩して階段から転落し、頭部を強打したと推定される。階段に手すりはなく、被災者は保護帽未着用であった。	413	1	10 ～ 29
			被災者は養鶏業務の従事者である。同僚労働者が事業場に出勤したとこ			

2019	3	18 ～ 20	ろ、被災者が事業場内鶏舎の横の、通路の脇にある側溝に顔が浸かった状態で倒れているのを発見した。その後、被災者は溺水を吸引し、窒息により死亡と診断されたもの。	713	10	30 ～ 49
2019	4	10 ～ 12	被災者は一人で牛舎内で柵の補修を担当していた。事業主が牛舎を見ると、牛舎内に倒れた被災者が牡牛に頭で突かれているのを発見。	719	6	1～ 9
2019	4	10 ～ 12	事業場敷地内北西部の牛舎横において、配水管敷設のため、ドラグショベルを使用して掘削作業を行っていたところ、掘削法面（高さ2.4m）の地山が崩壊し、作業員2名が生き埋めとなったもの。そのうち1名が死亡したもの。	711	5	1～ 9
2019	6	6 ～ 8	被災者は、門型のつり上げ装置（チェンブロック、ワイヤロープ、滑車等を組み合わせた人力装置）を用いて馬運車（4t平ボディトラックに箱を載せたもの）から箱を降ろす作業に従事していたところ、吊元部分の金具が木製の梁から抜け、箱全体が約1.2m落下、反動で箱の下に敷こうとしていた角パイプが折れ曲がり被災者に激突、跳ね飛ばされた被災者が後頭部から地面に倒れたもの。（保護帽の着用なし）	361	4	10 ～ 29
2019	8	16 ～ 18	被災者は車を運転中、対向車線側の路外へ逸脱して死亡した。	221	17	10 ～ 29
2019	10	12 ～ 14	養豚場内にある豚の餌を入れるためのタンクの残量を確認するため高さ5.1メートルのはしごを登ったところ墜落したもの。墜落後は意識はあったが、後日左肘の裂傷から感染症による左腕の壊死が始まり、その翌日に死亡が確認された。	911	8	10 ～ 29
2018	1	～	被災者は同僚と2名で2階建厩舎の2階から牧草ロールを屋外の地上に落とす作業を行っていた。災害発生時、両名は牧草ロールを押して転がし2階床面端部まで運搬したが、端部の扉の金具に引っかかり落ちなかった。そこで、被災者がロールの進行方向左側側面にとりつき、ロール後方から	416	1	30 ～

		15	押している同僚と共にロールを細かく動かし地上に落としたところ、作業床端部に寄りすぎていた被災者がバランスを崩し2.95m下に転落した。				49
2018	8	8 ～ 9	牧場の牛舎屋根上にスプリンクラーを設置する作業を行う際に、スプリンクラーのホースを通すため、牛舎の屋根に上って作業を行っていたところ、屋根の明かり取りに乗った際に踏み抜き、約4.7m下の牛舎内通路に墜落した。容体急変し、死亡した。	415	1		10 ～ 29
2018	9	8 ～ 9	鶏糞発酵建屋の屋根材が台風で吹き飛ばされたため、ビニールシートで養生する前の段取りのために、屋根上に上っていたところ、劣化した樹脂製波板を踏み抜いて5.3m墜落した。頭・胸・腹部の外傷を負った。	415	1		50 ～ 99
2018	12	10 ～ 11	エアガンを用いて鶏舎内で羽毛を除去する清掃作業を行っていた被災者が、集卵エレベーター（以下コンベヤー）とコンベヤーとの間に取り付けられた動力伝達シャフ部分に、衣服、髪などが巻き込まれ意識不明の状態で発見された。その後、被災者は収容先の病院で死亡した。	121	7		10 ～ 29
2018	12	10 ～ 11	ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様）を用いてつり上げた鋼製型枠の束（全長1.5メートル、推定質量約500kg）をトラックの荷台に下ろす作業において、玉掛けに使用したチェーンが切断して荷が崩れ、その下にいた被災者が下敷きになった。	372	4		1～ 9
2017	1	10 ～ 11	競走馬調教作業中、強風に驚いた競走馬が調教不能になったことから、ラチ（木製の柵）に激突した弾みで騎乗していた被災者が地面に墜落し、頭部を強打したため意識不明になった。1週間後、搬送先の病院にて死亡を確認。ヘルメットの着用あり。	719	1		1～ 9
2017	1	12 ～ 13	牛舎において、ロール状の牧草を裁断して給餌するロールカッター（農業用トラクターに連結したもの）の脇で、脚を負傷した状態で倒れているのを発見された。	169	7		1～ 9
2017	2	14 ～	養豚場において、豚舎（3階建て、軒高6.7m）の雪庇落としのため、被災者が屋根に上ってスコップ等で雪庇を落とし、他の労働者1名が地上で落ちた雪庇をかき集めていた。その作業中、地上で雪庇をかき集めてい	415	1		1～

		15	た労働者が、背後でドサッという音がした場所を確認したところ、倒れている被災者を発見した。			9
2017	3	14 ～ 15	被災者はビニールハウスの屋根を張り替える作業を行う際に、フォークリフトのフォーク部分にパレットを9段積み、パレット上で作業を行っていたところ、墜落し死亡した。	222	1	1～ 9
2017	3	12 ～ 13	被災者は、牛舎内で清掃中、後退してきたトラクターに轢かれて死亡した。	169	7	10 ～ 29
2017	4	14 ～ 15	敷地内の作業道の舗装作業を行うため、被災者は舗装に使用するセメントが入ったフレコンバックを、フォークリフトのフォークの片方で吊り下げながら走行していたところ、作業道のくぼみに差し掛かった時にフォークリフトが横転し、被災者は運転席から投げ出されフォークリフトの下敷きとなった。	222	2	1～ 9
2017	5	12 ～ 13	トラクター・ショベルを使用したハッチ（子牛を飼育する木製の小屋）の移動作業において、トラクター・ショベルのバケットを上げ、ハッチをバケットから吊り下げた状態で走行していたところ、タイヤが何かに乗り上げた感触があり、運転者はトラクター・ショベルを停めて、運転席から降りトラクター・ショベルの左側を見ると被災者が倒れているのを発見した。	141	7	10 ～ 29
2017	7	8 ～ 9	仮置きしていたFRPタンク（高さ＝8m、直径＝3m）のマンホールの向きを変えるため、被災者がタンク頂部ノズルフランジ（直径＝56cm）にベルトスリングを2重に巻きつけた。同僚がドラグショベルで地切りしたところ、ノズルフランジ部が切断してベルトスリングが外れてその弾みでタンク頂部から墜落した。	418	1	1～ 9
2017	8	14 ～	午後1時30分頃から、被災者と同僚の作業員の2名は移動はしごを使用して、事業場の敷地内にある被災者が居住している宿舍の屋根（高さ約4.5m）の補修作業を行い、午後3時の休憩時間までに完了し、同僚の	371	1	1～

		15	作業員は休憩室に向かった。午後3時頃、当該事業場の代表取締役がバイクで牛舎等を巡回していたところ、宿舎に立て掛けられた移動はしごの横で仰向きに倒れ、頭部から出血している被災者を発見した。			9
2017	9	16 ～ 17	鶏舎敷地内において、木造の物置小屋の増設作業を行っていた。軒高約2.7mの屋根に長さ約3mのアルミニウム製のはしごを立て掛け、角材とブルーシートを持ってはしごを登っていたところ、バランスを崩してアスファルト舗装された地面に墜落した。	371	1	1～ 9
2017	12	10 ～ 11	豚舎内で豚の糞尿処理作業を行っていた被災者が、糞尿を豚舎外へ搬出するためのスクリーコンベア（奥行き0.3メートルの側溝内に埋め込まれた径約0.27メートルのスクリーコンベア）に巻き込まれ、死亡した状態で発見された。	224	7	10 ～ 29
2017	12	14 ～ 15	被災者一人で牛舎の清掃を行うため牛の追い出し作業を行っていたところ、牛に激突された。その後、被災者は自力で柵の外に脱出し、倒れていた所を事業場内を巡回していた労働者に発見された。発見時は被災者の意識があり、胸の痛み及び呼吸苦を訴えていたが徐々に意識が無くなり、救急搬送されたが死亡した。	719	6	1～ 9
2016	3	13 ～ 14	鶏舎で雛の出荷準備中、鶏舎2階にあった雛の入ったラック（約210kg）をトラックに乗せるため、フォークリフトで専用のパレット（金属製の手すり付き）を高さ約2.2mの2階床面まで持ち上げ、被災者がパレット上にラックを運搬して載せていたところ、パレットがバランスを崩して傾き、被災者がコンクリート地面に墜落、さらに、ラックが一度地面でバウンドしてから被災者の上に落下し、被災者が下敷きとなった。	222	1	30 ～ 49
2016	4	7 ～ 8	車両系建設機械のバケットを小型移動式クレーンを用いて、当該移動式クレーンの荷台へ積込む作業を行っていた。バケット側のアタッチメント接続用のピンホールへ単管を通し、当該単管にフックを掛けてつり上げ、地切りした際に、重心が移動し、バケットが被災者側に回転、被災者の足下がすくわれると同時に単管からフックが外れたため、荷とともに被災者が用水路へ転落し、法面と当該バケットの間にはさまれた。	611	6	1～ 9

2016	5	11 ~ 12	<p>自社工場において、焼酎廃液の入った貯蔵タンク（直径約2.2m、高さ約2.5m）からポンプを介して小分け用のタンク（約1m四方の立方体）に移し替える作業を行っていた作業者が、貯蔵タンク上部のマンホール（直径77cm）から、タンク内に入ったところ倒れた。救出のために、同タンク内に入った作業者も倒れた。</p>	714	12	1~ 9
2016	6	14 ~ 15	<p>堆肥回収のため、トラクターショベル（機体重量：5.8t）にて堆肥舎から前方道路に向かって左折し、直進しようとした際、当該道路を堆肥舎へ向かって歩いていた被災者と激突した。</p>	141	6	30 ~ 49
2016	7	10 ~ 11	<p>被災者は、農業用トラクターにより牧草ロール1個（重量約450kg）を運搬するため、下り勾配約15度の農道を下っていたところ、農道から逸走した後、横転し、運転席から投げ出された状態で、同僚に発見された。当初意識があったが、救急搬送中に容態が急変し、その後死亡した。</p>	229	2	10 ~ 29
2016	8	18 ~ 19	<p>大雨で豚舎から溢れ出た豚の糞尿をバキュームカーで吸い出す作業をしていたところ、停車していたバキュームカーが後方に逸走し、当該車両と豚舎の壁にはさまれて窒息死した。</p>	221	7	1~ 9
2016	9	7 ~ 8	<p>放牧地から集牧するため、被災者と同僚3人がそれぞれ2頭の馬を引き連れ厩舎に向かって縦に並び歩いていたところ、被災者の後方を歩いていた馬4頭が急に何かに驚き前に走り出し、4頭が集団で被災者に突っ込み巻き込まれた際、頭を路面に打ち付けた等により、クモ膜下出血及び頭蓋骨骨折で2日後に死亡した。</p>	719	6	10 ~ 29
2016	9	12 ~ 13	<p>被災者が最大積載量3.5tのバルク車を傾斜約8度の坂に止め、運転席から降りたところ、車が動き出し、キャビンとサイロの柱の間に挟まり死亡した。</p>	221	7	1~ 9
2016	11	10 ~ 11	<p>最近休憩室に設置されたTVの受信状態が悪かったため、午前の休憩時間中にトラクター車庫の屋根に登り、TVアンテナの設置・調整をしようとしたところ、スレート屋根を踏み抜き約4m下の土間に墜落し、頭部等を強く打ち死亡した。</p>	415	1	1~ 9
			<p>被災者は、競馬場敷地内にある装鞍所において、競走馬を引いて周回行動</p>			

2015	7	12 ～ 13	をしていたところ、当該馬が装鞍所中央部の植え込み部に進入したため、引き綱を引いて戻そうとしたところ、転回した当該馬の左後ろ足に左後頭部を蹴られ被災したもの。（ヘルメットは着用していたが保護のない耳の後ろを蹴られたもの）	719	6	～ 29
2015	1	13 ～ 14	被災者は、牛にエサをあたえるため、エサをあたえるための装置を積載したフォークリフトを運転していた。牛舎出入り口を後進して出て、約10度の勾配の通路途中で右にハンドルを切ったところ、フォークリフトは左側に横転した。被災者は、緊張性気胸により、1月1日午後5時ごろ死亡した。	222	2	1～ 9
2015	8	1 ～ 2	ヒヨコを配送するトラック（2 t）の運転席側ドアと建物の壁にはさまれ被災したもの。被災者が当該トラックへヒヨコを積み込もうとしていたところ、何らかの理由でトラックが前方に動き出したのでトラックを止めようとしていたと思われる。災害発生時、サイドブレーキは引かれておらず、トラックの止めてあった場所は2度のこう配があった。	221	7	10 ～ 29
2015	7	9 ～ 10	養豚場内の堆肥を製造する建屋に設置された処理槽（豚の糞尿の中間処理物を貯める槽。幅約3 m、奥行約7 m、高さ約3.5 m）の梯子の下に、作業員Aが倒れているのを作業員Bが発見した。作業員Bは処理槽に入つたが、作業員Aを救助できず建屋から外に出て、付近にいた労働者に助けを求めた後、具合が悪くなり倒れた。	514	12	30 ～ 49
2015	11	0 ～ 1	事業場で管理している畑境界にある立木の伐採作業を5名で行っていた。チェーンソーで立木（高さ20 m、胸高直径50 cm）の追口を切っていたところ、当該立木が縦に裂け、伐倒者の左後方で作業を見ていた被災者が倒れてきた木の下敷きになり、死亡した。	712	5	1～ 9
2015	5	7 ～ 8	飼料庫に設置された混合機を使用して飼料の混合作業に従事していたところ、被災者が混合機内のスクリュウに全身を巻き込まれて死亡したもの。被災者は死亡しており、災害発生時は1人作業であったため、詳細な発生状況は不明。	162	7	10 ～ 29

2015	5	17 ～ 18	被災者は養豚場にて就労する技能実習生。5月4日にトイレで倒れ意識を失っているところを発見される。救急搬送されるも重症化し5月18日死亡。当人は本国にて脾臓を摘出しており、免疫機能が低下しているところ、家畜由来の病原菌に感染し、敗血症により死亡したとの病院による診断が出ている。	911	90	1～ 9
2014	3	8 ～ 9	フォークリフト運転者が、サイドブレーキを引かずに運転席を離れた際、作業面が傾斜していたため、フォークリフトが斜面を下り、大型トラック方向に動き出し、フォークリフトを止めようとしたフォークリフト運転者である被災者が、フォークリフトと大型トラックの間に挟まれ、死亡した。	222	6	10 ～ 29
2014	5	16 ～ 17	し尿用の浄化槽の点検、清掃中、浄化槽内のごみを取り除くため、浄化槽のマンホールの蓋を開け、マンホールに設置した移動はしごを降りていた際、足を滑らせ、槽内の汚水に後ろ向きに転落し、溺死した。	371	1	1～ 9
2014	7	20 ～ 21	被災者は、豚舎への餌を配る作業に従事。種付け準備作業及び豚舎のカーテンの開閉作業をしていたところ、熱中症によって死亡した。	715	90	1～ 9
2014	8	11 ～ 12	牛舎の清掃のため、牛小屋に入った際、牛があばれだし、角などで突かれ、腹腔内大量出血により死亡した。	719	6	1～ 9
2014	8	10 ～ 11	被災者は、放牧場の牧柵の内側に仰向けに倒れているのを、同僚に発見された。近くに種牛がロープで牧柵の外側につながれており、被災者の背や腰に擦り傷があり、腹部で大量の内出血があった。	719	6	1～ 9
2014	9	5 ～ 6	調教中の馬が放馬されている馬場内を確認したところ、コース内の外周ラチ付近で倒れている被災者が発見された。被災者は、頭部外傷による急性硬膜下血腫により死亡した。	719	1	10 ～ 29
2014	10	5 ～ 6	高速道路を走行中、タイヤがパンクした為、ハザードランプを点灯させ、速度を落とし、走行していたところ、大型トラックに追突され、横転し、死亡した。	221	17	50 ～ 99

2013	2	13 ～ 14	被災者は、トラクター・ショベルを運転し、高さ約7メートル勾配90度のたい肥堆積物を採取していたところ、約10立方メートルのたい肥が落下、同たい肥の直撃を受け死亡したと推測される。	911	4	30 ～ 49
2013	1	16 ～ 17	被災者は、牧場の牛舎において、雌牛の搾乳前に、雄牛を麻のロープで牛舎の柱にくくりつける作業を行っていた。その時、雄牛が突然暴れだして、被災者を2～3m突き飛ばした。被災者は、コンクリート塀（高さ50cm）に激突し、尻もちをつく格好で倒れこんだ。近くにいた労働者2名が雄牛を追い払い、被災者を牛舎内から通路側に救出し、救急搬送したが死亡した。	719	6	1～ 9
2013	8	19 ～ 20	被災者は、鶏卵の出荷作業担当で、機械の下に汚れ防止のために敷かれていたビニールをしゃがんで洗っていたが、同僚が前のめりになっている被災者に気付き確認したところ、被災者の意識が無かったため、救急搬送したが、熱中症の疑いで死亡した。	715	11	30 ～ 49
2013	12	16 ～ 17	被災者は、豚舎の壁の隙間をビニールカーテンで貼り付けるため屋根に上り作業中、屋根の端でビニールカーテンの余った部分をカッターを使用してカットしようとしていたところ、高さ2.5mからコンクリート地面に墜落した。	415	1	1～ 9
2013	5	9 ～ 10	被災者は、農場の鶏舎3階において、集卵機のエレベーターチェーンの張り具合を修理している際、回転中のシャフトに着ていた衣服が巻きつき、体がシャフトに締め付けられ圧迫され窒息した。	121	7	30 ～ 49
2013	3	8 ～ 9	堆肥舎において、発酵堆肥製造機（堆肥場のレール上を走行しながら堆肥をかき混ぜる機械）のかき混ぜ棒が外れたため、同機を一時停止させて修理していたところ、同機が自動で再起動して当該かき混ぜ棒が付いている同機のロータリー部に巻き込まれた。	162	7	10 ～ 29
2013	7	8 ～ 9	豚のし尿を入れている貯留槽内部において、ポンプの修理作業を行っていた被災者が浮いているところを、他の労働者に発見された。	514	12	1～ 9

2012	6	9 ～ 10	大雨の影響で土砂崩れが発生し、鶏が水を飲むためのパイプが詰まったため、トラクターショベルにより土砂の除去作業を行っていたところ、バケットに入れた土砂の重量でバランスを崩し、横転。オペレーターであった被災者は、トラクターショベルの下敷きとなり死亡した。	141	2	10 ～ 29
2012	5	6 ～ 7	被災者がトラック（最大積載量7.1 t）の暖機を行おうと運転席のドアを開け、地上からエンジンキーを回したところ、トラックが前進し、前方の木材集積箇所へトラックが突っ込み、当該木材が運転席ドアを閉める形となり、被災者はドアとキャビン後方との間に上半身を挟まれ、心肺停止に至った。	221	7	30 ～ 49
2012	10	17 ～ 18	飼料畑にて、被災者はトラクターショベルで堆肥をならす作業をしていたところ、当該敷地に隣接し約2m下にある畑に重機ごと転落し、重機に挟まれ骨盤等の複雑骨折により死亡した。	141	1	1～ 9
2012	10	16 ～ 17	被災者は鶏舎の屋根上で屋根の修理を行っている際、プラスチック製の波板を踏み抜き、約3mの高さから墜落し、コンクリートの床に頭部を強打し死亡した。	415	1	1～ 9
2012	5	12 ～ 13	被災者はビート植付け作業に従事し、農業用トラクターにビート移植機を連結させた状態で暖機運転を行っていたところ、動力源であるドライブシャフト（PTO軸）に左腕が巻き込まれ、上腕部を切断された。なお、ドライブシャフトには、プラスチック製の安全カバーが設置されていたが、当該カバーと移植機本体との隙間に作業服の繊維が巻き込まれた。	169	7	10 ～ 29
2012	10	14 ～ 15	被災者を含め複数で刈り取った飼料用デントコーンの山にビニールシートをかぶせる作業中、デントコーン上に掛けられたビニールシートの下に入り込んだ際、ビニールシート下の酸素が低濃度である空気を吸ったことにより体調に異常をきたし、自身の嘔吐物により窒息した。なお、デントコーンはコの字形をした盛土内に、山積みになっていた。	714	12	10 ～ 29
		12	被災者は、事業場から離れた場所にある田において、1人でベーラと呼ばれる農業機械を運転して、稲わらロールを作製する作業を行っていた。事業主が被災者に作業状況を確認するも、応答がないため、事業主が被災者			1～

2011	8	～ 13	の作業場所である田に行ったところ、ベアラの機械内部に右腕を挟まれて いる被災者を発見した。この時、被災者の意識は無く、すぐに病院に搬送 したが死亡が確認された。	169	7	9
2011	12	～ 14	被災者は、手鎌を用いて養豚場敷地内の草刈り作業を行っていた。被災場 所である石積みの上の法面の草刈り作業を行っていたところ、5. 8メー トル下の小川に墜落し、小川内の石に頭部をぶつけ被災した。	711	1	1～ 9
2011	10	～ 7	トレーニングセンター内において、競走馬の準備運動のため、乗馬した状 態で厩舎周辺の馬道を歩かせていたところ、突然暴れだし、乗馬していた 厩務員が振り落とされ、馬道周辺の木に当たり、車道側へ落ちた。	719	1	1～ 9
2011	2	～ 14	被災者は牧場第1号厩舎へ牛に飼葉を与えに行ったが、通常の時間になっ ても戻ってこなかったことから、同僚労働者が第1号厩舎へ確認に行った ところ、意識混濁状態で鼻から血を流して歩いていたため、救急車により 黒部市民病院に搬送、後頭部頭蓋骨骨折・脳挫傷により平成23年2月2 7日午前11時10分死亡するに至ったものである。	417	2	1～ 9
2011	3	～ 7	鶏糞肥料製袋工程における肥料供給機において、製袋工が肥料をほぐす攪 拌棒に巻き込まれ死亡した。被災者は午前8時から一人作業（肥料の袋 詰）を行っていたが、午前8時50分頃、上記状態にあるのを同僚に発見 されたもの。なお当該機械の回転部には、前・側部ともに囲い込み（高さ 90cmのコンパネ製）がなされていた。	162	7	10 ～ 29
2011	4	～ 15	被災者は鶏舎で鶏糞処理を行っていたところ、上着が集卵機と集卵機の間 にある、集卵機の動力伝達シャフトに引っかかり、そのまま巻き込まれ、 上着が首を締め付けるように圧迫し、死亡した。	121	7	10 ～ 29
2011	11	～ 7	事業者所有のワゴン車で、作業員6名が災害発生当日の作業場所である農 場に向かうため、県道を走行中、道路脇から出てきたトラクターと衝突 し、2名が死亡、1名が重傷、3名が軽傷をおった。	231	17	30 ～ 49
2011	11	～	事業者所有のワゴン車で、作業員6名が災害発生当日の作業場所である農 場に向かうため、県道を走行中、道路脇から出てきたトラクターと衝突	231	17	30 ～

		7	し、2名が死亡、1名が重傷、3名が軽傷をおった。			49
2010	12	13 ～ 14	被災者と同僚の2名で、午前中よりアーク溶接機（発電機と一体型）を用いて豚舎2階部分の柵を補修する作業を行っていた。午後の作業を開始するため被災者が発電機のスイッチを入れたところ、溶接機の下部から出火。それに気づいた同僚が消火器を取るため一旦外に出たが、戻ってきた時には煙が充満し中に入ることができなかった。その後、全焼した豚舎の2階から被災者の遺体が発見された。	332	16	30 ～ 49
2010	12	16 ～ 17	肉牛の放牧地において、1人で自走式堆肥散布機の修理を行っていた被災者が、堆肥散布機の荷台の下で、着用していた合羽のフードが回転していたシャフトに触れたため右肩部分まで巻き込まれて、首が絞められて死亡したもの。堆肥散布機のエンジンは掛かった状態であった。	169	7	1～ 9
2010	10	11 ～ 12	牛舎内の牧柵の溶接修理作業を行うため、修理箇所の確認を行っていたところ、不意に牛が被災者にぶつかってきて、被災者はそのまま牧柵との間に胸を挟まれ、入院先の病院で死亡した。短時間作業であったため、牧区内の牛を牧柵で隔離していなかった。	719	7	1～ 9
2010	7	14 ～ 15	被災者は養鶏場で採卵作業に従事し、昼休みに作業場から約1km離れた休憩所で食事をとったあと、自転車で戻る途中の道路上で突然倒れ、死亡したもの。熱中症と推定される。	715	11	10 ～ 29
2010	7	16 ～ 17	大雨の影響で鶏舎横の裏山が崩れ土砂が鶏舎横に堆積していたため、被災者がトラクターショベルを使用して崩れた土砂を除去していた。夕刻になり帰宅中の従業員が土砂の運搬を行っていた箇所の法面下に重機が横転しているのを確認したが被災者の姿が見あたらないため帰宅した。翌日になっても、重機が横転したままになっていたため、重機の下を確認したところ、被災者が下敷きになっているのが発見された。被災者がトラクターショベルの運転操作を誤り、法面から重機が転落し、その下敷きになったものとみられる。	141	7	10 ～ 29
		14	配布したチラシを回収するため、自動2輪車にて近隣の学校やスーパーマーケット等を訪問移動中、スピード超過によりカーブを曲がりきれずに			30

2010	6	～ 15	自動2輪車が転倒し、身体のみ対向車線にはみ出し、対向してきた普通乗用車に激突した。	231	17	～ 49
2010	5	11 ～ 12	被災者は、鶏ふんを集めに自社の農場の堆肥舎前で、ダンプ（最大積載荷重3.5t）の荷台に乗り、積んだ鶏ふんをスコップで均す作業中、ダンプのアオリ（高さ2.35m）からコンクリート舗装面に墜落し頭部を負傷し、6日後に死亡した。墜落防止措置を講じていなかった。	221	1	30 ～ 49
2010	5	10 ～ 11	事業場構内のコンクリート舗装された下り坂（勾配約15度）の通路において、被災者の運転するフォークリフトが、前進走行で坂を下っていたところ、フォークリフトが操作の誤り（スピードの出し過ぎ、急ブレーキ、急ハンドル等）のため、横転した。被災者は横転したフォークリフトの下敷きになり死亡した。	222	2	10 ～ 29
2010	4	11 ～ 12	被災者は、取引先の有機センターへ鶏糞を搬入するため、鶏糞1次処理（乾燥）場において、4tの天蓋付きダンプトラックへ鶏糞を積み込む作業を行おうと、当該ダンプトラックの荷台の上に登り、天蓋をスライドさせながら開閉していたところ、何らかの事由により墜落した。現場には天蓋の取っ手が取れて落ちていた。墜落後、同僚が発見し、救急車にて搬送したものの、その後合併症を発症し、約2カ月後に死亡した。	221	1	50 ～ 99
2010	3	16 ～ 17	卵を収集する集卵機において、機械を停止せずに回転部分及びモーターカバーに付着したゴミ等をカッターナイフで除去していたところ、右腕袖の部分が、機械に巻き込まれたことにより、上半身が挟まれ死亡した。	169	7	10 ～ 29
2010	1	10 ～ 11	粃殻庫で1人作業中、粃殻の状況確認のため粃殻倉庫内部を移動中、粃殻の少ない箇所へ転落し、反動で粃殻が崩れて粃殻に埋まり、多量の粃殻を吸引し窒息したと思われる。	418	1	1～ 9
2010	1	7 ～ 8	牛舎の清掃作業を行っていた女性作業員が、付近にいた雄牛（体重600kg）と接触した後、頭部を牛舎内の柵に強打し、死亡した。当該柵には柵材固定用の金属ナットがあり、5cmの突起のある形状であった。被災者は当該ナットで頭部を強打したものと推定される。	719	6	1～ 9

2009	1	13 ~ 14	畜産施設の敷地内において作業中の作業者が、アスファルトにより舗装され、勾配約4度で、積雪により埋もれた状態となっているスロープの路肩から脱輪し、転倒している最大荷重2.38tのフォークリフトに近づいたところ、当該フォークリフトのヘッドガードと地面との間にはさまった状態で倒れている被災者を発見した。その後被災者は病院へ搬送されたが死亡した。	222	2	1~ 9
2009	2	13 ~ 14	豚舎において、給餌作業を行っていた被災者が豚舎横に設けられた餌貯蔵用のサイロのわきで仰向けに倒れているところを同僚が発見した。同日、搬送先の病院において死亡が確認された。当時、被災者は一人で作業を行っており被災時の状況を目撃した者はいなかった。	911	90	1~ 9
2009	6	11 ~ 12	被災者は集卵用コンベヤー（ベルトコンベヤー）に巻き込まれた状態で意識を失っているところを様子を見に来た同僚に発見された。なお、被災当時、被災者は一人作業をしており、被災状況を確認した者はいない。	224	7	10 ~ 29
2009	7	17 ~ 18	当該事業場において、最大積載荷重2tのフォークリフトを運転していたところ、敷地に隣接する河川敷へ転落し、フォークリフトの下敷きになった。	222	1	1~ 9
2009	8	17 ~ 18	被災者は豚舎で家畜の糞尿を回収するスクレーパー付近で、機械設備のメンテナンスを実施しており、右手にシャベル、左手に配線を掴んだまま仰向けに倒れているところを発見された。また、分電盤の扉は開いていたが、被災直前、分電盤のブレーカーが落とされていたかどうかは不明。	351	13	1~ 9
2009	5	11 ~ 12	被災者は養鶏の餌を調合するため、倉庫内にて単独で作業を行っていた。餌の材料である米かすを取りに行く途中、材料の隣に4段で積み重ねられていた袋状の荷（トウモロコシ粉・魚粉、1袋500kg、高さ60~70cm）が崩壊し、上2段の荷が被災者に落下し激突した。単独作業のため目撃者はいない。	611	5	10 ~ 29
2009	10	15 ~ 16	競走馬の計量のため、同僚既務員と2人で競走馬を馬衡所内にある計量マットの上に誘導し乗せたところ、馬が興奮して馬衡所の出口から飛び出し、手綱を持っていた被災者は手綱をはなさなかったためそのまま引っ張られ転倒し、その後も地面を引きずられた。その後、被災者は、約5ヵ月後に死	719	3	10 ~ 29

			亡した。			
2009	4	9 ～ 10	被災者が農場（養豚場）から本社敷地内にある処理場に4tバキュームカーで豚のし尿を運搬中、踏切内において立往生していたところ、普通列車と衝突した。被災者は列車の非常停止ボタンを押した後、付近に退避していたが、衝突によって飛散したバキュームカーや踏切設備等が衝突した。被災者の他、普通列車の運転士と乗客2人が負傷した。	221	17	10 ～ 29
2009	7	10 ～ 11	納屋（木造）の建設工事において同納屋の底の骨組みを取付ける作業を行っていた被災者は、小型移動式クレーンで水平につり上げた丸太を取付るにあたり、同底の骨組である水平に設置された角材（幅10cm、長さ1.7mで仮組されていたもの）を足場としていたところ、同水平材が外れた（釘やつり材等の水平材の支えが外れ）ために約5m下の地面へ墜落した。被災者は、保護帽及び安全帯は未着用だった。	415	1	1～ 9
2009	6	15 ～ 16	被災者は一人で、食用馬を飼育するために借りていた放牧地の牧柵修理や沢沿いに自生している樺の木の新伐倒作業を行っていた。チェーンソーで胸高直径27cmの樺の木の伐倒作業を行った被災者は、当該立木が倒れなかったため自立状態のまま放置し、次の立木の伐倒作業にかかった。その後、自立していた樺の木が倒れ、被災者を直撃し、その下敷きとなった。	712	5	1～ 9
2008	8	10 ～ 11	被災者と上司は斜面上にあるパイプの補修作業をするために、切断されたパイプの上方にある倒木の枝打ち作業を開始した。上司は、被災者が枝打ちした枝等を斜面下方を向いて束ねていたところ、斜面上方から「ザザッ」という音がしたため、とっさに下方に移動して振り返ると、斜面下方にある沢に墜落した被災者を発見した。被災者は病院に搬送されたが死亡した。	711	1	1～ 9
2008	11	10 ～ 11	被災者は朝から高原牛舎でトラクター・ショベルを用いて堆肥を牛舎から搬出する作業を行っていた。昼過ぎに同僚が高原牛舎に牛の餌を搬入しに来たところ、牛舎の付近で倒れている被災者を発見した。	719	6	10 ～ 29
		13	牧場内にある休憩所のトイレ前で被災者が倒れているのが発見された。医療機関に搬送したが死亡した。被災者は、午前中のトラック整備作業終了			1～

2008	7	～ 14	後、休憩のため午後0時30分頃に休憩所に戻り、昼食をとらずにそのまま休んでいた。	715	11	9
2008	9	～ 17	16 酪農従事者が車両系建設機械を運転中に行方不明となり、上司がキャベツ畑で発見した。牧場内の道路路肩から、勾配35度の斜面を14mほど滑落していた。	141	1	1～ 9
2008	6	～ 10	9 動物園の獣舎内（トラの寝室）で飼育員がトラにかまれた。	911	90	～ 49
2008	8	～ 14	13 敷地内の牛舎から肉用牛が排泄した糞を運び出す作業を行うため、被災者がトラクター・ショベルを運転して、片側が下り斜面となっている舗装された幅2.5m、下り勾配約6～9度の私道を後進していたところ、路肩の高さ4.6mの箇所から右後輪が脱輪してトラクター・ショベルが転覆・横転して投げ出された被災者が、法面下にある事務所の壁と転覆したトラクター・ショベルの間にはさまれた。	141	1	1～ 9
2008	2	～ 9	8 日本酒を製造する工程の蒸した酒米を冷却する装置において、酒米を投入するホッパー付近にある攪拌棒（長さ約100cmの棒に約6cmほどの突起が等間隔に34本付いたもの）やベルトコンベヤーに付いた酒米を取り除こうとして被災者が掃除をしていたところ、攪拌棒に巻き込まれ死亡した。	169	7	1～ 9
2008	8	～ 8	7 農場の敷地内において、2tトラックAが故障したため、2tトラックBでけん引して約1.5m移動させて止めた。この時、被災者はAトラック、同僚がBトラックを運転していた。その後、Bトラックの運転手は、後方のAトラックが近づいてくるのが見えたため、後方確認を助手席の作業者に依頼した。助手席の作業者がBトラックの後部を見たところ、Aトラックの前部との間にはさまれている被災者を発見した。	221	7	1～ 9
2008	7	～ 12	11 養豚場内のマンホールの内部に立ち上がったところ、意識を失って倒れて死亡した。なお、救出時に、当該マンホールの内部に立ち上がった場長も一時意識を失い倒れたが、すぐに意識が回復した。	714	12	～ 29

2008	2	20 ～ 21	宿直作業において、場内の見回り、処理槽への薬液注入作業をしていた被災者が行方不明となり場内を捜したところ、尿の処理槽の中から死亡して発見された。処理施設内を移動中に処理槽内へ転落した。	391	10	10 ～ 29
2008	1	8 ～ 9	被災者は、使用者の居宅敷地内に設置されたユニットハウスに住み込み、牛の飼育作業に従事していた。災害発生日は、朝の飼育作業を午前8時前頃に終え、ユニットハウスに戻って休憩していたところ、室内に設置されていた石油ストーブの火が被災者の着衣に燃え移り被災した。	391	16	1～ 9
2008	10	11 ～ 12	被災者は、牧場構内出入口に設置された鉄製扉と乗用車との間にはさまれた状態で発見され、病院へ収容されたが死亡した。なお、被災者は一人作業で牛に給餌するために乗用車から降りて鉄製扉を開錠しようとした際、自分が乗ってきた車が動き出しはさまれ被災した。	231	7	10 ～ 29
2007	6	14 ～ 15	被災者が事業場敷地内にある牛舎内の2階部分（牧草置場）において、牧草のブロックを、約2.6m下のコンクリート側溝（コンクリート製の餌箱）内に落とす作業を行っていたところ、同側溝に墜落した。	416	1	1～ 9
2007	5	8 ～ 9	被災者は、鶏舎内に山積されている鶏糞（鶏糞にもみがらとおがくずが混ざったもの）をトラクター・ショベルを使用して、トラックに積み込む作業をしていた。他の従業員が当該鶏舎の中に入ったところ、鶏舎天井の梁とトラクター・ショベルの運転席ではさまれている被災者を発見した。	141	3	1～ 9
2007	12	10 ～ 11	被災者は同僚1名と共に社用車を使用して、用務を終えたのち帰社しようとしたところ、町道において対向してきた4tダンプと正面衝突した。	231	17	10 ～ 29
2007	1	8 ～ 9	鶏糞タンクにスクリューコンベヤーで鶏糞を入れる作業中、スクリューコンベヤーの鶏糞投入口のスクリューにはさまれた。	224	7	50 ～ 99
2007	10	14 ～ 15	養鶏農場の鶏舎内において、鶏の餌を運ぶために設置されているスクリューコンベヤーの付近に倒れている被災者が発見された。被災者は、鶏舎内のハエ取り紙の撤去中に、スクリューコンベヤーに巻き込まれたものと思われる。	224	7	50 ～ 99

2007	3	14 ～ 15	農業用トラクターのシャフトを介してバキュームタンク付属のポンプを動か かし、家畜し尿を同タンク内に引き込む作業を単独で行っていたところ、 トラクターと同タンクのポンプに接続していた回転シャフト（地上から高 さ50cmの位置）にジャンパーが巻き込まれた。	121	7	10 ～ 29
2007	9	16 ～ 17	牛舎を建設するため、被災者は、当該牛舎の屋根頂部に上り、鉄骨で組み 立てられた換気口の傾きを修正する作業を行っていたところ、屋根の鉄骨 と鉄骨との間に50cm間隔に並べられていた垂木を踏み折り、約9.5 m下の地面に墜落した。	418	1	1～ 9
2007	1	13 ～ 14	牛舎内の牛の寝床の敷料（麦かん）を敷く作業を同僚と2人で行う予定と なっていた被災者が寝床内で牛に激突され倒れているのを同僚が発見し た。	719	6	1～ 9
2006	12	8 ～ 9	調教の終わった馬が騎手から被災者に受け渡され、被災者が騎乗して厩舎 に戻ろうとした途中に、当該馬が後ろ足で跳ねたため、バランスを崩し馬 の首の上に抱きつくような状態になり、ゆっくりと滑りながら地面に墜落 し、被災した。	719	1	10 ～ 29
2006	11	11 ～ 12	被災者が牛舎において、乳牛の牛追い作業を行っていたところ、牛舎の端 にロープで繋がれていた黒毛和牛（オス、種牛）に激突された。黒毛和牛 を繋いだロープの長さは約5.5mであった。	719	6	30 ～ 49
2006	8	13 ～ 14	牧場で飼っている牛馬の寝床に敷くおが屑を、木工所のサイロから2トン トラックの荷台に落とそうとしたが、おが屑の出が悪かったため、サイロ のホッパーを下からバールで突いたところ、大量のおが屑が落下し、被災 者がおが屑を大量に吸い込んだ。	418	4	1～ 9
2006	8	16 ～ 17	農業機械を運転して、行方不明となっていた放牧中の牛一匹を捜していた ところ、段差のある傾斜地で車両が横転し、振り落とされた被災者がその 下敷きとなった。	229	1	1～ 9
		10	鶏の育成場でケージの掃除等の作業を行う被災者が、作業中に2階（ケー ジ設置階）から1階（鶏糞が堆積している階）へ墜落し、鶏糞を吸い込み			10

2006	3	11	死亡した。1階フロアから2階フロアまでの高さは2.5メートル。家族や同僚が搜索したところ、うつ伏せの状態での死亡した被災者が発見された。	719	90	29
2006	1	14	養豚場の豚舎の屋根除雪作業（積雪量約30～50cm）において作業実施後、屋根反対側の積雪量確認のため屋根上を移動中、硬質塩化ビニル（ガラス網入り）波板（豚舎内への採光用に設置したもの）を踏み抜き、高さ5.8mより豚舎内に墜落した。	415	1	29
2005	3	18	鶏舎間の道路を歩行中、ブロイラーを出荷するためバックで走行してきたトラックにひかれた。	221	17	49
2005	6	4	馬運動場において馬の引き運動中、馬が突然後ろにさがり、被災者が蹴られた。	911	6	29
2005	12	9	牧場の厩務員が馬に騎乗し、牧場内の馬場を調教のため走っていたところ、落馬した。	719	1	9
2005	7	16	競走馬育成牧場の厩舎内において、厩舎の清掃作業等を体験就労中、熱中症により体調不調を訴えた。	715	11	29
2005	3	8	農業用トラクターのバケットに厩舎で使用済みの敷藁を載せ、堆積場まで運搬していたところ、河川敷の路肩から90cm下の平地に農業用トラクターごと転落し、農業用トラクターの下敷きとなった。	169	1	9
2005	9	16	牛舎で、牛糞を運び出すチェーンコンベヤーのチェーンの緩みをとるため、チェーンにベルトスリングを掛けて引っ張りながら同コンベヤーを動かして、チェーンの緩みを1カ所に集める作業を単独で行っていたが、ベルトスリングのもう一方の端が逆方向に動いているチェーンに引っかかり、両端をチェーンで引っ張られたベルトスリングに巻き込まれた。	224	7	9

2004	9	16	養豚場内において、台風で壊れた豚舎の屋根を被災者が2連式はしごの上に	371	1	30
		17	乗って補修作業を行っていたところ、当該はしごが倒れ、高さ2.6m下のコ			～
			ンクリート床面に墜落した。			49
2004	3	14	鶏糞堆肥生産設備の堆肥冷却装置において、堆肥を冷却装置の端部まで自	169	7	1～
		15	動で移動させるためのスクレーパー部と、鋼板製フードとの間に挟まれ			9
			た。			
2004	11	13	工場2階の集卵室に設置していた集卵機の入れ替えに伴う搬出作業のため、	416	1	10
		14	工場2階の既設外壁を取り外し、そこから搬出作業を行っていたところ、外			～
			壁を取り外していた作業床の端から4m下の地面に墜落した。			29
2004	4	14	鶏糞肥料（15kg袋入り）を運搬するベルトコンベアのベルトに緩みが発生	229	7	10
		15	したため、針金で応急処置作業中、パレタイザーのアームに挟まれた。			～
						29
2004	11	16	鶏舎の鶏の世話を行っていた際、秒速約8cmで無人自動運転中だった給餌	169	7	10
		17	用機械が接近してきたことに気付かず、当該給餌用機械と柱の間に挟まれ			～
			た。			29
2004	9	8	処理済鶏糞をホイール式トラクタショベルで、4tトラックに積み込む作業	141	7	10
		9	中、トラクタショベルの後方にいた被災者がバックしたトラクタショベル			～
			の左側後輪にひかれた。			29
2004	4	15	有機肥料を製造する作業場において、発酵ロータリーマシン（円型旋回	162	7	10
		16	型）の台車の上に乗し、機械に付着した堆積物の清掃作業を行っていたと			～
			ころ、堆肥の上に落ち、台車の下部にあるロータリー一部回転軸に巻き込ま			29
			れた。			
2004	1	14	トラクター・ショベルを運転し、牧場内の整地作業（ダンプで運搬した土	141	2	1～
		15	砂を平らにならす作業）を行っていたところ、作業中にトラクター・ショ			9
			ベルとともに横転し、下敷きになった。			
2004	5	10	フォークアタッチメントを装着した農業用トラクターで、麦稈ロール（直	169	4	30
		～	径1.8m・幅1.2m、重量約200kg）を運搬する作業を行っていたところ、			～

		11	フォーク上に載せていた麦稈ロールが運転席側に転がり落ち、運転中の被災者に激突した。			49
2004	7	11 ～ 12	牛の排泄物運搬等に使用しているトラクター・ショベルのエンジンルームの清掃を行うため、後輪を角材の上に寄せエンジンルームの底板を取り外すため車両の下に潜って作業していたところ、後輪が角材端部から落ち車両と地面の間に挟まれた。	141	7	1～ 9
2003	11	0 ～ 1	牛舎柵内（雄牛2頭、乳牛50頭）に入って牛を搾乳場へ追い込んでいたときに、雄牛に激突されたのち牛舎コンクリート壁と雄牛にはさまれた。	719	6	10 ～ 29
2003	11	10 ～ 11	牛の餌となる飼料を攪拌（かくはん）する機械の中に入って清掃作業を行っていたときに、機械の回転していた羽根の支持部材と容器の内壁との間に腹部をはさまれた。	169	7	1～ 9
2003	11	18 ～ 19	鶏舎暖房用ボイラーに燃料となる鶏糞をトラクター・ショベルで投入して敷地内の砂利道を走行中、高さ約5mの法面（のりめん）を転落した。	141	1	1～ 9
2003	11	20 ～ 21	養鶏場付属の鶏糞肥料製造工場において、製品500kg入りのフレキシブルコンテナを2.5tフォークリフトのフォークにつり下げ、その後、フォークリフトを降りてフレコンの内容物を詰め替えるため、フレコン底面の内容物取出口を解放しようとしたときに、フレコンのつり下げ用スリングがフォークから外れて落下し激突された。	222	4	30 ～ 49
2003	7	15 ～ 16	鶏のワクチンを取りに行くため軽自動車で農道を走行中、対向車線のセンターラインを超えてきた普通乗用車と正面衝突した。	231	17	1～ 9
2003	4	9 ～ 10	牛舎2階の飼料置場からクレーンを使用して飼料を1階へ運ぶ作業中に、2階床の開口部（2.6m×3.7m）から3m下の1階床に墜落した。	414	1	1～ 9
			10tのダンプ・トラックで畑へ堆肥の運搬作業をしていたところ、途中でト			

2003	2	11 ～ 12	トラックが脱輪したので同僚とともにトラクター・ショベル(機体質量が3t)でトラックのフックにワイヤロープをかけ牽引しているときに、フックを支えていたボルトが壊れてフックが外れ、そのフックがトラクター・ショベルの運転者を直撃した。	521	4	1～ 9
2003	1	17 ～ 18	養鶏農場内の雨漏りしている鶏舎の屋根（軒先高さ250cm、傾斜角度22度）にアクリル製の波板（長さ186cm、幅65cm）を張る補修作業で、屋根からはしごへ移っているときに、軒先が折れて約2.5m下の地面に墜落した。	415	1	10 ～ 29
2003	1	14 ～ 15	旧牛舎に置かれていた餌を作るためのサイレージの缶（鉄製の箱、153cm×306cm×153cm）を別の場所に運ぶよう指示を受け、最大荷重3.5tのフォークリフトで旧牛舎に向かったが、旧牛舎前の道で横転しフォークリフトのヘッドガードに頭部をはさまれた。	222	2	30 ～ 49
2002	3	7 ～ 8	調教のために騎乗して馬場に向かう途中、突然馬が暴れ出してを逆走し、静止しきれずに約60m暴走して落馬した。	719	1	10 ～ 29
2002	8	7 ～ 8	サラブレッド3歳の騎乗調教中、馬がつまづいたため前方へ投げ出されて背中から落馬した。	719	1	10 ～ 29
2002	3	11 ～ 12	養鶏場から死んだ鶏を処分場に運ぶため軽トラックで走行中、赤信号を無視して交差点に進入してきた普通トラックと交差点内で衝突した。	221	17	1～ 9
2002	3	7 ～ 8	競馬場内において馬運車より馬を降ろす際に、馬が暴れたため馬とともに転落し馬の下敷きとなった。	719	1	10 ～ 29
2002	2	7 ～ 8	トレセン内を馬に乗り運動中、他の馬が放馬したのに驚いて暴れたため頭部より落馬した。	719	1	10 ～ 29

2002	1	8 ~ 9	牛舎のパドックにおいて、カッティングミキサー（自走式で飼料を混合、搬出する機械）で乳牛に給餌中、ミキサーのホッパー上部で餌（乾草、グラスサイレージ、飼料の混合物）が固まってしまったので、ホッパーのへり上で掻き落とす作業を行っていたときにホッパー内に転落し、稼働していたスクリー部分に右足部分から巻き込まれた。	162	7	~ 49	30
2001	2	11 ~ 12	養鶏場のプラスチック波板屋根の頂上付近に穴があいたため補修作業を行っているときに屋根を踏み抜き6m下に墜落した。	415	1	1~ 9	
2001	8	3 ~ 4	工場から出火し工場内に寄宿していた2名のうち1名が逃げ遅れて焼死した。	418	16	~ 49	30
2001	11	9 ~ 10	豚の糞を豚舎の外部に排出するスクリーコンベアのところでスコップを用いてスクリーコンベア内に糞をかき入れていたときに、足を滑らせてスクリーコンベアに足を巻き込まれた。	224	7	1~ 9	
2001	11	0 ~ 1	2才の牡馬に乗馬して厩舎の回りを運動中に、近くにいた他の馬が暴れたのに驚いて馬が暴れ、落馬した。	719	1	1~ 9	
2001	8	14 ~ 15	同僚運転者と2人で不用になった卵を車で運搬し事業場内の道路脇に掘った穴に廃棄したが道路がUターンするには道幅が狭かったため、同僚運転手は後進を始め、道路三叉路付近で荷台より転落したことに気づかぬまま後進を続け、車の後輪でひかれた。	221	7	1~ 9	
2001	4	21 ~ 22	軽トラックで事業場内道路(未舗装、幅約5m、傾斜角約20度)を走行中に、運転操作を誤って路肩から右前輪が脱輪したため運転席から降りようとしていたところ、軽トラックが傾き用水路(幅約3m、深さ約3m)に軽トラックとともに転落した。	221	1	~ 29	10
2001	4	14 ~ 15	2tトラックで注文のあった肥料を個人農家数件に配達中、十字路で右方向から進入してきた軽乗用車と衝突。	221	17	~ 29	10

2001	4	7 ～ 8	牛舎内にある配餌機(移動しながら餌を配給する自動機械)に挟まれた。	229	7	1～ 9
2000	9	15 ～ 16	担当する馬を運動させているときに急に馬が暴れ出し、後足で腹部を蹴られた。	719	6	1～ 9
2000	4	11 ～ 12	養鶏場内の鶏舎から他の鶏舎へ移動する際、鶏舎と飼料用タンクの間を通ろうとしたところ、飼料用のパイプに頭をぶつけてよろけ、約3.5m下のコンクリート製の溝に転落し、頭を強打した。病院に運ばれたが、脳挫傷で死亡した。	418	1	1～ 9
2000	2	10 ～ 11	厩務員2名で競走馬を運動のため馬房から出して歩行させているときに、突然前足2本を上げ暴れ出したので片方の厩務員が引き綱を放したため、もう一人の厩務員が綱を持ったまま馬の後部に回る形となり後左足で腹部を蹴られた。	719	6	1～ 9
2000	5	11 ～ 12	2トンドンプトラックで農場へ堆肥を搬送する作業中に荷台の下に挟まれた。	221	7	10 ～ 29
2000	3	7 ～ 8	厩舎内の馬房において馬の手入れ作業中、馬が興奮して突然暴れ出し腹部を蹴られた。	719	6	10 ～ 29
2000	9	15 ～ 16	養豚場の軽トラックで籾殻の運搬のため堤防道路上(幅約3m)をトラックで走行中、運転を誤って路外に転落して小屋に激突し、地面と運転席扉の窓部との間に挟まれた。	221	17	1～ 9
1999	11	19 ～ 20	農場で豚の糞出しに使用する小型ローダーへ自家用燃料タンクから給油中に、誤って軽油を浴びたのに着替えをせずにて、煙草にライターで火を付けたときに衣服に火がついて火傷を負った。	512	11	1～ 9
		11	麦を取りに来たトラックと同じ会社の理事が運転するダンプが走行してい			10

1999	8	～ 12	て、交差点を左折するためダンプが減速したところにトラックが追突し、はずみで交差点左方向で一時停止していた乗用車に追突して路外に転落した。	221	17	～ 29
1999	10	15 ～ 16	空輸された食用馬の検疫のため、空港からトラックで検疫所に運びこまれた馬を所定の畜舎の馬房に収容する作業中に、暴れだした馬に激突され、馬の胸部と通路仕切用の馬栓棒(7. 5mm角・厚さ2mm・アルミ合金製)との間に挟まれた。	719	6	10 ～ 29
1999	7	10 ～ 11	畜産場内の1000トン貯水タンク裏側の樹木枝打ち作業中に右目上のまぶたを蜂に刺された。	719	90	100 ～ 299
1999	7	16 ～ 17	トラクターショベルで競走馬の寝わら等を焼却灰捨場に捨てに行き、捨場の斜面からトラクターショベルとともに転落し、その下敷きとなった。	141	1	1～ 9
1999	6	18 ～ 19	養鶏場で飼料等を運ぶ動力運搬車を作業終了後に道路から倉庫の中に移動させていたところ、道路の路肩から約3. 5m下へ転落し、その下敷きとなった。	229	1	1～ 9
1999	4	14 ～ 15	子豚を2階から1階に降ろすためリフト搬器を2階に止めて搬器の扉を開けていたときに、他作業者がリフトで2階に上るため搬器を1階に下ろそうとしたが搬器の扉が2階床面に引っ掛かり搬器が2階から約40cm下がった位置で止まったので、作業員4名で搬器の扉を外したところ搬器が1階近くまで落下し、1名が2階床面端と搬器上部フレームの間に挟まれた。	214	7	1～ 9
1999	2	11 ～ 12	液肥槽からスラリーローリー車で液肥を運搬して農地に散布する作業で、6回目の液肥くみ取りを行うため、液肥槽の周囲の除雪を行っているときに誤って深さ約4メートルの液肥槽に墜落し被災した。	418	10	50 ～ 99
1999	2	14 ～ 15	屋内トレーニングセンターにおいて軽種馬の調教のため騎乗したところ、突然、軽種馬が暴走したため、落馬し、腹部を踏まれた。	719	1	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.htmlに戻る。